平成２５年度研究成果報告書《平成25年度教育課程研究指定校事業》

都道府県・指定都市番号	17	都道府県・指定都市名	石川県
ふりがな 学校名（生徒数）	かなざわだいがくにんげんしゃかいがくいきがっこうきょういくがくるいふぞくちゅうがっこう 金沢大学人間社会学域学校教育学類附属中学校（466人）		

（本研究に係る問い合わせ先）
所在地：921-8105　石川県金沢市平和町1丁目1番15号
電話番号：076-226-2121
メールアドレス：kfutyu@futyu.ed.kanazawa-u.ac.jp
学校のホームページのURL：http://partner.ed.kanazawa-u.ac.jp/futyu/

【研究成果のポイント】

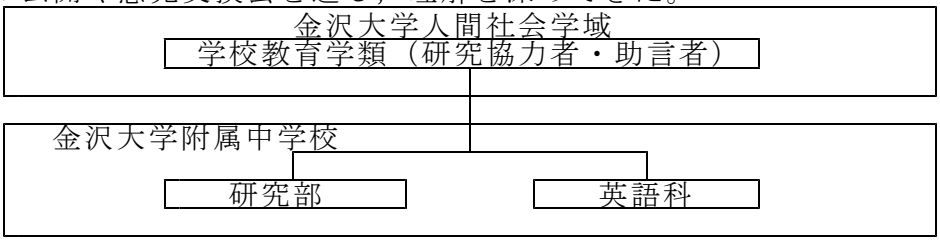
○研究のキーワード：
読みの指導と表現活動の組み合わせ，意欲的，主体的に読む態度
○研究成果のポイント：
単元目標を達成させるために表現活動を指導展開の中に取り入れることで，より深く意欲的，主体的に読もうとする態度を育成することができる。
指導過程において聞く，話す，書くの活動を読む活動に関連させたり，学年の発達段階に応じて言語活動の手順を変えたりすることで，本文の理解を促し，思考力を育成することができる。

【研究の目的，研究内容】

（１）研究主題

積極的に読みを深める態度を育てる工夫 ～表現活動と関連させた単元作り～

（２）研究主題設定の理由
これまでの読みの指導といえば概要をつかませたり，テキストの表面に現れている事実を確認する質問に答えさせたり，感想を書かせたりといった指導が中心で，教師主導型の活動が多かった。また，教科書本文の指導においても，文法などの言語材料を扱うことが中心で，内容そのものに踏み込んだ指導になっていなかった。
本研究では，読む指導に表現活動を関連させることで，テキストの主題や内容をより身近に捉え，主体的に考えたり判断したりしながら，意欲的に深く読もうとする態度を育成することを目的としている。
（３）研究体制
本研究に関しては教科部会が中心となって行い，金沢大学の教科教育担当の准教授に指導，助言を依頼した。また，学校研究の研究主題との関連を図り，校内研究会においても授業の公開や意見交換会を通し，理解を深めてきた。



（４）１年間の主な取組の経過

平成25年度	・表現活動を取り入れた読みの指導展開を考え，授業実践に取り組んだ。（4～6月） ・２，３年生における授業を公開し，助言者を交え，単元計画，授業展開，調査方法などについて研究を深めた。（7月10日） ・１年生において授業を公開し，校内研究の一環として思考力の育成と本研究の関連について研究を深めた。（10月22日） ・本校研究中間意見交換会においてポスターセッションを行い，本校英語科の研究テーマである「主体的に読みを深める工夫」と表現活動の関連について参会者と意見交換を行った。（11月22日） ・２年生における授業を公開し，助言者を交え，校内研究会と合同整理会を行った。（12月3日） ・実践と実践後の生徒への意識調査の結果やワークシートを基に分析し，研究成果をまとめ，課題と今後の取組について明らかにする。（12～2月）

（５）具体的な研究内容・方法，研究を進める上での工夫点等
①表現活動と関連させた読みの指導
　単元のゴールを表現活動に設定し，読みの活動に取り組んだ。読みの指導過程にも表現活動を段階的に入れることで，本文の背景理解や登場人物への共感を促すなど，意欲的に深く読もうとする態度の育成を目指して取り組んだ。
②聞く，話す，書くの技能を読みの技能に関連させた学習活動
　本文の内容を聞いてから読んだり，行間に隠された言葉を考えて書いた後にもう一度読んだりするなど，技能を組み合わせて何度も本文を読ませた。
③読むときと表現するときの工夫
　読む際にテキストの談話構造を整理するために，書かれている文の働きについて考えさせたり，図を使って整理させたり，表現する際にイメージマップを用いたりした。
④学習形態の工夫
　お互いの意見や本文に対する多様な考えに触れられることを意図して，ペアで表現活動をしたり，自分の考えをグループ内で発表し合ったりする学習形態を工夫した。
⑤学習記録
　学習記録を付けさせ，考え方の変化や学びの蓄積を生徒自身が振り返ることができるようにした。
⑥初出のテキストの使用
　教科書の単元が終わった後，それに関連した主題の初出のテキストや同じジャンルのテキストを読む機会を与え，内容について質問に答えさせたり，表現させたり，感想を書かせたりして，意欲的に読もうとする態度が見られるか調査した。

【研究成果とその意義等】

（１）研究成果
①読むことへの意欲
　表現活動を読みの活動に関連させることで，何度もテキストに目を通し，その背景や登場人物の心情について考えたり，自分の考えを反映させながら意欲的に読もうとしたり態度を育成することができる。他のテキストを読んだ後の意識調査では「興味を持って読んだ」「意欲的に読んだ」という項目で高い数値を示している。
②主体的に読もうとする態度
　テキストの表面に現れた事実を確認するだけでなく，行間を読み取ろうとしたり，複数の視点から注意深く考えたり，自分の考え方を他者の視点で捉え直したりと批判的な読み方をする態度を育成することができる。また，目的を持つことで自分で判断しながら読もうとする主体的な態度が育成される。単元終了後の意識調査では，「読み方が変わった」「今まで気づかなかったことを読み取ることができた」という感想が見られた。
③表現力への波及
　表現活動を読みの目的として設定し，読みの指導を行うと，そこから表現の方法を学びとり，自分のものとして習得している。読みの指導の後の表現活動ではテキストからのものと思われる表現が見られた。意識調査でも「教科書本文から表現を学ぶことができた」という項目で 92 ポイントと高い数値を示している。
（２）研究成果の意義等
　読みの活動と表現活動を関連させることで，双方における思考力の育成が相乗的になされるものと考えられる。また，積極的に深く読もうとする態度は上級学校での読みの学習につながり，将来的には生徒自身が自立した読み手となることに資するものと考える。
　読んだものの理解を表現されたもので見取ることについて，研究協議会でその評価の妥当性が議論となった。英語で表現させる際，誤りもあるため指導は行うが「外国語表現の能力」での評価は行わず，指導のための形成的な評価とする。又，「外国語理解の能力」を正当に見取るためには英語という負荷をかけないことが大切であり，そのためには日本語で感想を書かせるなどの方法も考えられる。
　単元構想に当たっては，一つの技能を独立させて考えるのではなく，複数の技能を組み合わせた言語活動の展開を工夫する必要があり，評価についても議論が残るところであるが，読みと表現を関連付けたことは技能の統合について改めて考え直す提案となった。
（３）指定期間終了後の取組
　年間計画を見直し，表現活動を入れる単元を計画的に考える必要がある。また，学年に応じてどのような読ませ方をするか等，長期的な展望で読みの指導を捉える必要がある。